ビビフル処理による開花促進を皮切りとしたストック産地の活性化

淡路農業技術センターが開発したビビフルフロアブル処理によるストックの開花促進技術の普及により、市場評価の高い品種「アイアン」シリーズの年内出荷が定着した。また、これと並行して生産者組織が晩生のオリジナル品種を交配育種したことにより、11月から5月の出荷期間を通じて消費者ニーズに即した高品質ストックの生産体制が構築できた。

開花促進技術の普及

淡路のストックは冠婚葬祭に幅広く使われ、無加温で栽培可能な点で農家の注目度が高く、11月から５月にかけて出荷されている（38人　6.6ha）。

従来ストックは、早生品種から晩生品種までを組み合わせることで、秋から翌春まで継続して出荷してきた。しかし切り花品質の高い「アイアン」シリーズが登場し、他品種に比べて高単価で取引されるようになると、１月以降に出荷されていた「アイアン」を年内出荷する技術の開発が強く求められた。2005年に淡路農業技術センターがビビフルフロアブル（ビビフル）処理による「アイアン」の開花促進技術（８月上旬には播（は）種し、幼苗期（本葉10～14枚時とその７～10日後）にビビフル1000倍液を茎葉散布）を開発し、年内出荷が可能になった。

当技術は普及を始めてから３年ほどで、淡路市内の年内出荷品種のほぼ100％が「アイアン」に転換してしまうほど、生産者の評価が高かった。

また、「アイアン」を確実に年内出荷できるようになり、年内出荷後のハウスを利用し、二期作による４～５月出荷の作型が増加してきている。

晩生のオリジナル品種の育成

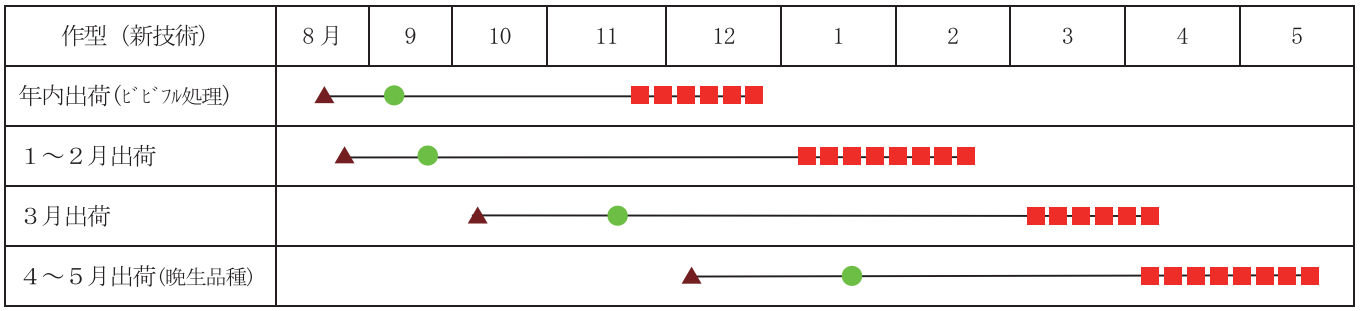
二期作による４～５月出荷は、「アイアン」では花芽分化が早すぎて草丈が十分確保できないという問題点がある。これを解決するために、淡路ストック研究会（会長池田保氏　13人）ではオリジナルの晩生品種育成を目指して、2006年から交配育種に取り組んできた。2011年春には念願のオリジナル品種が誕生し、「淡路ホワイト」「淡路ピンク」と名付けられた（写真）。

開花促進技術と晩生品種を組み合わせることによって、11月から５月まで高品質なストックを安定的に供給できる体制が整いつつある。

初田　いづみ（北淡路農業改良普及センター）
（問い合わせ先　電話：0799－62－0671）

写真　念願のオリジナル品種「淡路ホワイト」

淡路市のストック栽培体系（ビビフル処理と晩生品種の組み合わせによる連続出荷体系）



▲：播種　●：定植　■：収穫

ひょうごの農林水産技術　No.175　（2011.11）　＊本内容は、当センターホームページにも掲載
平成23年11月15日　兵庫県立農林水産技術総合センター（0790）－47－2406
23農Ⓟ2-001 A4